

京交山岳部報

No. 366

1983 4月号

〔第1421回例会〕

登山者体力測定会

(T)

日 時 4月3日(日) 静原キャンプ場前 9時集合
コ ー ス 静原キャンプ場…東俣…天ヶ岳…翠霧山…金毘羅山…江文神社
絵馬堂…江文峠(ゴール)
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 2539)
備 考 岳連主催の行事に参加しますので、担当者まで申し出て下さい。

〔第1422回例会〕 美濃

天 狗 山

(T)

日 時 4月9日(土) 早朝マイカーにて出発予定
コ ー ス 京都東一名神一大垣一横山ダム…黒津川…天狗山…往路下山
担 当 者 本局 三橋 勉(TEL 2215)
備 考 マイカーにて行きますので希望者は連絡して下さい。

〔第1423回例会〕 南ア

穴沢の頭△1983.2mと地藏岳△2370.7m

(T)

日 時 4月16日(土)~18日(月) 15日夜7時マイカーにてみぶ出発
コ ー ス 京都東一名神一中央一駒ヶ根一伊那一市野瀬一塩平一田城原林道…穴沢
の頭…地藏岳
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(TEL 2343) 1/5万図「市ノ瀬、赤穂」
備 考 本年度の年号 1983年にちなんだ山に行きますので希望者は担当まで

〔第1424回例会〕 美濃

△1057m (点名 深谷)

(T)

日 時 4月25日(月) 名神京都東 7時出発
コ ー ス 彦根IC一浅井町高山…頂△1057m 往路を帰る。
担 当 者 OB 伊藤潤治(TEL 463-4936)

備考 去る2月13日、風雪注意報で延期した第1413回例会 飯盛山 ca
740m (部報 364号参照)を 4月10日(日)に行きます。
どちらの山もマイカーで行きますので連絡して下さい。

今月の集会

(机上講習) 地図の読み方— 各自、2月集会時の宿題を提出していただきます。(担当 吉田)

4月 7日(木) 下鴨寮

企画運営リーダー会

4月21日(木) 三橋宅

部長として

岡田 茂久

伝説ある京交山岳部の柱石として、故宮後部長の位置づけは、まことに大きなものであったと改めて想いおこさせること、数ヶ月でありました。氏を失ったことで山岳部の前途にいろいろの懸念が予想されましたが、副部長及び企画運営リーダー会を中心とした、百数十名の部員を擁する京交山岳部は、一時の衝撃と動揺はあったものの、揺ぎもみせずに見えるのは、さすが頼もしい限りです。しかしこの答はこれからです。

この大事な時期にあたり、次期部長に推されたことは、私の20数年にわたる山岳活動の一大転機であり、山岳部員相互の親睦、その技術の向上、安全登山の推進等におよばずながらも意欲をわかしていますが、その重責にいいよりのないためらいと、とまどいを覚えているのも事実です。

昭和32年10月山岳部新入部員として、初めて例会に参加したのが丹波の長老岳で、その時が故宮後部長とも初めての出会いでした。以来何十山と山行を共にし、その人柄にひかれ、山に対する情熱と技術、山に対する考え方を吸収し、あるときは討論してきました。しかし私の山に対する考え方は、故宮後部長とともにあり、その道を踏襲するものであります。

ご存知のように現在の山岳部の運営は、企画運営リーダー会を執行機関とし、予算の立案・年間山行の企画より備品の購入計画等迄も行っています。部長はこの機関のまとめ役としてあり、私も微力ながら最大限の努力をするつもりではおりますが、これらには企画運営リーダー会の強い行動力と、諸先輩部員並びに現役部員の諸氏のお力添えがなければなにもできません。今後職域団体として変則異種勤務形態の中での例会の組み方、若い力の導入と、そのための企画運営リーダー会メンバーの再編、職域サークルとして局厚生事業への協力の仕方、さらにきたる63年の京都国体における、山岳連盟の組織団体としての協力体制の確立等々、問題は山積されています。今後共山岳

部諸氏には、無理な願いをするやも知れませんが、京交山岳部の地味ながらも、30数年にならんとする堅実な伝統の火を守り、楽しく安全な登山を続けていくため、よろしくご協力をお願いいたします。

なお、公私多忙にありながらも、部長代行とし色々尽力願った大槻副部長に、改めて拍手を送りたいと思います。

冬 山 '83

川 原 傅 治

夏山合宿と同じく、今回の冬山合宿も初めから色々もめたすえ、(私と広瀬さんがいっしょになるととかくもめるようで)中央アルプスの木曾駒ヶ岳へ登ることに決まり、本格的な冬山合宿ということで、実施のはこびとなった。参加者は、岡田、吉田、和田、古市、広瀬、井戸、方山、井上川原の9名、しかし、どうも私の予想とかなりちがった合宿だった。その行程は…。

2/11 朝7時京都駅八条口集合、前日の夜かなりの論争で終始した分担装備・食糧をそれぞれリュックにつめ込み全員集合、1台の車に乗り込み、いざ出発、1台の車なので、道中確認事項や2日間の日程等の打合せを行う。打合せのほとんどなかった今回の合宿ではじめて全員が一つになって山へ行こうとする雰囲気、この中で作られる。駒ヶ根インターまで途中チェーンが切れたくらいで、順調に進む。バスの時間をまちがえ、全員大あわてでバスに乗り込む。(この合宿では色々調査もれがあったようでたいへんだった。)ロープウェイも貸切りですべて予定どおりだった。

ロープウェイで千畳敷カール着。気温 -15° 、外はガスって雪、ホテルの中で着替えをして、千畳敷の適当な所へテントをはって日程をこなすだけといった感じでした。メンバーに、ホテルの人が「どこでテントを設営するのですか。千畳敷カールではテントは張れないので、稜線まで出て行って下さい」とのこと。これにはまいった。吹雪いている上にガスってなにも見えないところを1時間以上歩かなければならなくなった。広瀬さんいわく「行きましよう。」一岡田さんや吉田さんは「無理だ。」さてこまったことになった。しかし、我々は幸運だった。当日、大阪府山岳連盟の100人あまりが、千畳敷カールで合宿していたので、岡田さんや吉田さんが、早速たのみにいき、なんとかテントをはれることになる。これで問題はなくなった。さあ、外へ、全員きおいこんで外へ出る。ところが、ふぶきで何も見えない。真白である。風も強いし、まあ、テントをとりあえずはることにして、作業にかかった、しかしどうもすずしすぎるような感じがする。和田さんに写真をとってくれと要望がでるが、和田さんいわく「人を殺す気か、テントをはる間に写真なんかとられるか、この寒いのに」(実際は、どうもカメラのシャッターが降りなかったようだ)この辺から今回の合宿の「和田語彙」が出はじめ、寒さがどうも一味ちがうと感じながら、合宿気分がもりあがる。テントをはり終え、荷物を整理して、近くの斜面でビッケルストップとアイゼ

ンワークをやる。ここでも雪というか氷というか、比良や伊吹とまったくちがっていることが、いやというほどわかった。そういえば「乾燥した雪」という感覚がはっきりわかったのも今回の合宿であった。しかし、それも40分くらいやると足の先がほとんど感覚がなくなり、早々とやめて夕食の準備にかかる。焼ソバを主食にした夕食はたいへんりまかった。ゴアテックスのテントの中で明日の日程を確認しながら食事をとったが、ここで1つ気がついたことだが、やはり比良などと違って気温が低いうえに雪が多いので、装備は必要以外は全部テントの中に入れなければならないことだった。(その時私は、比良の時のように外へ出せばいいと思って、ホエップス、コップェル、食糧を外に出した。みんなカチンカチンに凍ってしまった。)

夕食は、山へ行くとき唯一の楽しみとなるので、みんなワイワイいながらよく食べた。ここで和田語彙を1つ「寒いから、なんでもかんでも腹に入れんと死んじまう。ワジにはまだ親も孫もいるんやぞ、何んでもたべたる。」今回の合宿に参加した方山さんの味付けで、おいしい焼ソバを食べたし、寒いわりには楽しい夜を過ごした。そして、それぞれのテントに別れて就寝するが、みんなそれぞれそいも虫のバケモノみたいに着込んで寝た。(想像するだけで…。)ゴアテックスのテントの5人の長い夜は、詳しくはわからなかったが、暑くて寝られなかったなどということだった。エスバースの4人は、まず夜勤あけの井上さんが30分くらいで、高イビキ。寝ることで京交山岳部一ではないかと思う井戸さんもすぐに寝て、私と広瀬さんがなかなかねられなかったようだ。しかし、みんな寝られないと言いつつも案外寝ているもので、私は5回時計を見て朝を迎え、みんな何回かは目をさましてはいるが、ほかの人はその時はちゃんとねているようだ。(よく、テントでは寝られないなどと言っているが、ぐっすり寝られないだけで、寝られないのではないのだからどンドン山へ行ってテントで寝てみて下さい。)この夜は、ラジオによるとこの冬一番の寒さだとか、ひどい時に山へ来たものだ。

2/12 朝一番先にとりのテントの和田さんがトイレに外へ出る。そしてこちらのテントからも私と広瀬さんが外へ。(この時の気温が -20°)広瀬さんは腹の調子が悪いとホテルのトイレへ行く。ホテルがなかったら? テントから外へ出るのも30cmくらいもった雪をほって外へ出るのだから、夜トイレに出たくてもちょっと考えてしまうのもむりはない。

それぞれのテントで朝食にするが、みんなあまり食欲がわかない(なぜだろう?)そして、今日の日程を決定する。テント、装備、食糧を撤収し、ホテルに入り、その後昨日と同じく雪上訓練をすることになる。(天候はまったく回復せず、ガスってふぶきっぱなし、気温も -15° 以下)さっそくテント等の撤収にかかる。(正直いって撤収ではなく、避難だったと思う。)テントが凍ってためないし、装備や食糧がみんなカチンカチンに凍っているし、なんともひどいもんでした。ホテルに全員集合し、雪上訓練にはいる。アイゼン歩行とビッケルストップは昨日と同じだ。アイゼンがよくきくし、ビッケルストップにいたっては、ほとんどすべりおちてしまった。雪ではなく氷だ。古市さんが急斜面をどンドンどこまでいくのかと思うくらいに登って行って、下で見えておそろしくなった。前にかなりやっているみたいで、「おれのアイゼンは旧式で重い」などと言っていたのがうなずけた。方山さんも一生懸命に歩く練習をしていた。しかし、私はやはり40分く

らいが限界でした。寒いのです。そこでみんな一度ホテルにもどってザイルを使うことになったが、そのままホテルの中へ入ってしまったって中止になる。岡田さんが「おれや吉田くんがきていて、あまり訓練らしいこともできなかつたし、山にも登れなかつたなあ」としきりに言っていたけれど、私の本音は「もう十分です」だった。そして、この時点一応合宿は終わりとなる。ロープウェイ、バス、車と乗りついで京都へ。

ここで、この合宿で気がついたことや反省点また評価できることをいくつかあげてみたいと思います。

- 反省点
- (1) 比良などちがって(合宿は当然そうあるべきだが)十分な準備期間を要して、こまかい合宿計画をたてて計画を進める。
 - (2) 装備の使い方の練習と、テントの中での装備の整理、また、より簡単な操作で利用できる装備の研究。
 - (3) 簡単に作れて、すぐ食べれ、あとかたづけが簡単で、しかも冬山で十分行動できる食糧計画の研究。
 - (4) 手袋やミトンの上から装備を十分つかいこなせるように練習する。
 - (5) 冬山でのテントや装備のパッキングになれておくこと。
 - (6) 現地の交通の便やキャンプができるかどうかなど、必要な情報を確実に収集すること。

評価できる点

- (1) -20°前後の山で合宿できたこと。
- (2) 色々な年代のメンバーで合宿ができたこと。
- (3) 3000級の冬山は、そう簡単に登れないし、簡単に登れると考えるようになったこと。
- (4) 冬山で天候が悪くなるとどうなるかがわかったこと。

まだまだ私もいろいろの事を考え、また参加された各メンバーの方も自分なりに考えられたと思います。結局、宝剣岳や木曾駒ヶ岳も何も見ずに終わった合宿でしたが、十分「冬山」を味えたのではないのでしょうか。最後に装備の整備をしていただいた和田、古市両氏、食糧の井上氏、リーダーシップ、車で等お世話になった岡田、吉田両氏、そして初めて冬山へ一緒に行った方山、井戸両氏、そして、いつものことながら私ともめた広瀬氏、どうもありがとうございました。またよろしくお願いします。以上、冬山レポートでした。

〔コースタイム〕

| | | | | |
|------|------|-----------|-------|------------|
| 2/11 | 7:00 | 八条口出発 | 9:15 | 出発(養老) |
| | 7:20 | 京都東インター | 9:43 | 中央自動車道 |
| | 8:10 | 彦根チェーン装着 | 10:21 | 恵那サービスエリア着 |
| | 9:00 | 養老サービスエリア | | 昼食 |
| | | チェーンバンド紛失 | 10:45 | 恵那サービスエリア発 |

| | | | | |
|------|-------|-----------------|-------|----------------------|
| | 12:03 | 駒ヶ根インター | 16:30 | 訓練終了 |
| | 12:20 | 菅の台、バスに乗換 | | 夕食準備 |
| | 13:00 | しらび平 ロープウェイのりば着 | 17:30 | 夕食開始(焼ソバ、 バックライス) |
| | 13:24 | ロープウェイ出発(しらび平) | | |
| | 13:35 | 山荘着 | 18:45 | 夕食完了 |
| | 14:20 | テント設営開始 | | ミーティング |
| | 15:30 | ” 完了 | 20:00 | 就寝 |
| | | アイゼン装着、歩行訓練 | | |
| 2/12 | 5:00 | 起床、朝食準備 | 11:18 | ロープウェイ発 |
| | 6:30 | 朝食(2班) | 11:30 | しらび平、バス出発 |
| | 7:30 | 撤収開始 | 12:20 | 菅の台下車 |
| | | テント、ザック等ロッヂへ運ぶ | 12:50 | マイクロバスにて |
| | 8:00 | ビッケルワーク | | 菅の台出発 |
| | | アイゼン ” 訓練 | 15:45 | 多賀着、休憩 |
| | 10:00 | 訓練終了 | 16:00 | ” 出発 |
| | | ロッヂにてミーティング | 16:30 | 京都東インター |
| | | | 17:00 | 壬生 |

(記録 井戸澄夫)

真冬の中央アルプス

(木曾駒ヶ岳)

和田良一

まず最初に「死にそう…」と吹雪の千畳敷に着いて感じたことである。2632m、マイナス13℃吹雪で視界は？メートルだろう、大変な寒さだ。生まれてはじめてマイナス10℃以下の地に立った。

全員テント設営にとりかかり、雪を切りブロックにするもの等、各々の分担でテントは完成すると同時に食事の準備、なにもかも吹雪の中での作業、うまくはかどらない。しかし、テントの中の食事、焼ソバ(ソース煮)はたいへんおいしい。夜中に腹が減っては…ともりもり食べる、明日天気が回復するようにと祈りながら就寝。荷物が多く邪魔になり身動きできず、きゅうくつだがなんとしても寝なくてはならない。

外は猛吹雪、風でテントがバタバタする、雪が入ってくる。だがジッとガマンの子、寝ているものの明日の朝までこのような状態がつづくのかと思うと狭いテントの中、気が狂いそうになる。そのうちにイビキが聞える。この風雪のなか、よく寝られるものだ。なんとズ太いのだろう…長いようで短く感じた一夜、いぜん吹雪だ。しかしみんな寝ていなかったとのこと(本当はみんな

熟垂していたのに…。)

朝食後、リーダーの判断で今日の登頂は中止と決定する。早速テントを撤収、近辺をアイゼンをつけての歩行練習、滑落防止練習を行った。当初、装備・食糧の準備をし、胸をふくらませ冬山合宿に参加した小生、予想もしていなかった悪天候に写真担当でもありながらシャッターを押すこともできず申し訳けなく思うと同時に、わざわざ雪の中へ寝にいった今回、今具体的に書けないけれども冬山に対して非常に多くのことを勉強させてもらった。

また、いろいろと指導していただいた岡田、吉田両リーダー、はじめ川原君ら若手のみなさんありがとうございました。

第1414回例会

扇ノ山スキーツアー

武田喜久郎

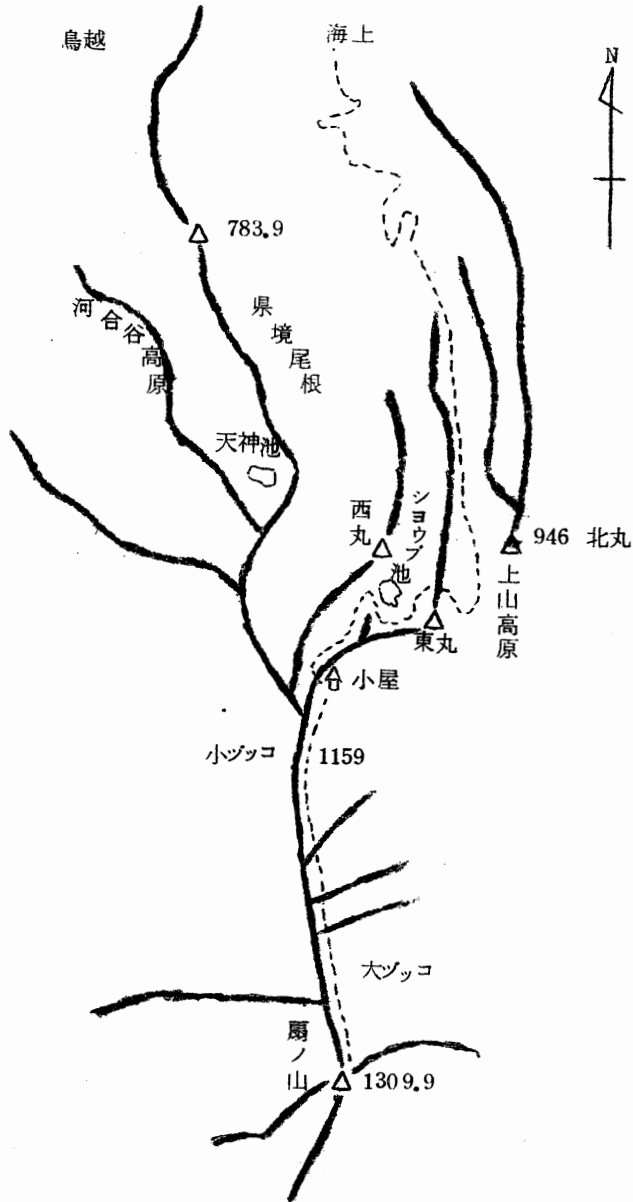
昨年に続いて今年も積雪不足で、氷ノ山から扇ノ山に目的地を変更した。ところがぎりぎりになってから冬型の天気となり、雪も降りだした。

2月19日土曜日決定した扇ノ山へ半どんの仕事が終わって、あわただしく着替えて山陰(9号線)へマイカーで出発する。

心配していた車の交通停滞も少く順調に走って春來峠を越える。蒲生峠の手前で岸田川沿い山に入る。村人に道をたずねて海上に着いたのは18時10分、部落の中を抜けて一番端の家のはずれにテントを張った。テントでホエーブスの青い火に鍋を囲むころ雪が舞いだした。

2月20日 日曜日、うっすらと新雪が積っている。予定より遅れて出発する。小学生が不思議そうに見送っている。1時間ほどで部落の南にある丘陵に着いた。休んで靴を脱ぐと両足共マメがつぶれて出血していた。手当てをして出発する。幸い新雪が少なくて足への負担が助かる。天気は変わりやすくて風雪が強い。林道は地図の点線よりゆるやかに造られていて、しばらくで平行する2本の北尾根の西側、標高700mの地点に出る。ふり返ると黒い雪雲の下に山なみが消える辺りに白い線がゆれる。日本海と浦富海岸だ。斜面はゆるやかな尾根となってきた。前方に土盛りをしたよりの丘が3つ立並ぶ平原が広がっている。その後やけに遠い所に扇ノ山が小ヅッコがのぞいて見える。時折曇日がさすが、風はあいかわらず強い。北尾根が合流する所が上山高原である。一番左の端が上山(兵庫の山やま)と云われる。真中のピークを右へトラバースして山腹を高捲くと右のピークとの間にショウブ池があらわれる。林道は吹だまりと逆に土が出て強い風に砂や小石がとんでくる。小さな池のまわりを廻る林道にけっこう時間をくう。地図の道を探しながら樹林帯と強い登りにあきらめて林道に行くことにした。バテていなければ、ラッセルは深いが早く安全に小ヅッコの小屋に行ける。夏道の次の尾根で中食をする。次の尾根はツポ足でラッセルしてトレースを造った。こゝでも急斜面にシュプールらしき跡を見たが、林道に行くことにした。トレースの最後は小

さな雪庇を乗越すいやらしい所である。次の同様な雪庇は沢づたいに行くと左に小ツッコの小屋が
 林の中に現われた。素晴らしい小屋である。ザックを整理して頂上へ出発した。小ツッコとはどの
 ピークをさすのか、小屋の前もゆるやかなピークが現われる。途中から大石もしくは雨滝からのシ
 ュブールに出合い。3人パーティで2人はパラレルターンをしているが、もう1人は直線で登り滑
 っている。大ツッコの下りもシールをつけていった。4時前扇ノ山山頂に着いた。もちろん三角点



は深い雪の下だ。山頂小屋に入る。コンクリートの立派な小屋だが、文字通り煙い小屋である。シューブルの連中が昨夜こゝで泊ったものであろう。缶ビールで乾杯して登頂を祝い、こゝで始めてシールをはずして滑降開始となった。痛む足でも下りは楽しい。雪も低い気温で非常に軽いステップターン、クリスチャニアと林間にシューブルを刻む。あれだけ汗をかいた登りもあっと云うまに大ゾッコとのコルである。再びシールを5分で着けて大ゾッコを登る。一時間で小ゾッコの小屋に帰る。あまりに快適なスキーイングにまだ少々滑りたかったが、明日に備えて小屋に入る。夜半になって雪が降りだした。今夜も鍋物、ストーブをかこんでお酒も入ると明日が楽しみになってくる。

2月21日 月曜日 雪が降っている。視界が悪い。昨夜の星空がよすぎたなと思う。すこし出発を遅らして風のおさまるのを待った。8時40分視界が30m前後で明るくなってきたので出発する。夏道の左の小さな沢(無雪期は沢と云うより山の腹であろうと思う)を下る。あっと云うまに昨日乗越に苦労した雪庇の手前が出る雪は軽いが、新雪は400m以上と思われる。上山高原までラッセルに手間どる。夏道を滑って桂の滝等に出てみてはという考えもあったが、結局上山高原に出て登った尾根を下った。勿論ラッセルでほとんど滑らない。標高が700mを下ると滑りはますます悪くなってラッセルしての下りである。所々地形を見て急斜面を利用して滑降を楽しんだ、海上の部落へ着いたのは昼前になっていた。こゝでも新雪は15~20cm位あった、折角の下山も新雪のラッセルで楽しめなかったが、ラッセルも又楽しい。もう一度機会をつくって滑ってみたい良い山であった。

[コースタイム]

海上8:10…丘9:00~9:08…700m尾根10:10~10:15…上山高原の石碑11:15…
北丸とショップ池の南12:10~12:35…小ゾッコの小屋13:40~14:40…小ゾッコ15:00
…大ゾッコ15:20…扇ノ山15:56~16:25…小ゾッコ小屋17:25…小ゾッコ小屋8:40
…上山高原9:50~9:55…海上11:40

[参加者] 三橋 勉、 大槻貞従、 武田喜久郎

扇ノ山スキーツアー

1日目(2/19)曇り

大槻貞従

三橋、武田、大槻の三人は忘れ物がないか道具類を点検し、テント、食糧、スキー板を車に積み込み武田宅を2時出発した。9号線を一路湯村へ。蒲生峠手前で海上の標識を左折し、9号線からはずれた。案外空いておりスムーズに来た。雪まじりのせまい林道を10分程走ったところを鋭角に右折(うっかりすると見過してしまい)し、急な坂道を5分程で本日のテント場である海上部落へ到着。ちょうど日も暮れかゝってきた。この村はそれでも50軒ぐらい有り、食糧品店もあるこ

じんまりしたよい村だ。その一番奥の人家で小屋の中にテントを張らせてもらった。あたりはもうとっぶり日は暮れた頃、テント生活のムードを楽しみながら夜食に舌つづみを打った。武田氏持参の黄桜をいただいた時はテント生活も悪くないなと思った。明日のルートを確認ながら、ありし日のツアー歴の自慢話を夜の更けるのも忘れて語り合った。外はチラチラ小雪が舞っており、明日の新雪を約束してくれそうだ。寒波襲来でやゝ寒かったが、酒の勢いでぐっすり寝こんだ。6時起床ラーメンにモチ入り雑炊で腹ごしらえが終ったところで、板にシールを張り出発。

2日目(2/20) 7時出発 曇り時々晴 積雪50cm

4・5日前に降った雨で雪が融けザラメになったところを寒気団襲来で固った上に昨夜の10cmほどの新雪が冠さっており、コンディションは上々で歩きやすい。足跡一つない真白い林道が大きく右左と等高線沿いに徐々に高度を上げている。なだらかな新雪に三人のシュブールが残って行った。村の段々畑のある風景が山間風景に変わる頃、所々なだれた箇所をトラバースする。標高900m辺りで積雪もぐんと増え、ふっくらした銀世界が我々を迎えてくれた。一山越した所で急に広々した白一色の高原に出た。速くまで見透せる標高946mの上山高原だ。『氷の山、後山国定公園』の看板が半分雪にうもれている。ここで小休止。小生、今日のはかつぎなれない重いザックに少々バテ気味になった。やがてショウ池まで来たら、本日の投宿小屋がはるか前方のピーク上に見えて来た。かなり遠い。林道だけにうねりねと遠廻りをしなければならず、荷物がズッシリとこたえてくる。風よけの場所で大休止し行動食をとる。もう少しで小屋だという所で大きな雪庇に出くわしスキーの板をはずしてツポ足でトレースする。よい勉強になった。一人でこんな場所に出くわしたとしたら、おそらくバックした事だろう。これも先輩に教えてもらえる有難さだ。30分かかって乗り越え、コブを一つ登ったところで小屋を後ろに見た。行き過ぎていた。危険な雪庇越えをしなくても、その手前の稜線を直登すれば小屋へ直接出られたらしい。小屋到着1時30分、茶色の三角屋根のスマートな小屋は肥前畑部落寄りの切り開かれた台地に建っていた。二階建ての広い小屋でゆりに20人は泊れる。ストーブに薪もふんだんであり、便所にはペーパーまでついている。ランプはあったが、残念ながら油と芯がなく灯りはとれなかった。ザックをおろした時は、正直言ってやれやれやっとたどり着いたという感じで、今日は特にしんどかった。一服した後、ツアーの醍醐味を味わうべく軽装で扇ノ山目指して出発。ルンランランランで小ジッコ、大ジッコと樹氷の林間をつき進んだ。はるか日本海の海岸線の鳥取砂丘が見える。青い空に樹氷が映え、絵ハガキのようだ。すばらしい一言である。真白な氷の山を左に見ながら粉雪のふな林を登ったり、下ったりして、目指すピークにたどりついた。4時前まさに360°の展望はすばらしい。ブロックで積んだ新しい小屋はこれまたムードがあり、例によってバンザイ三唱、ほんとに良い思い出に残りそうだ。ビールで乾杯。7・8人泊れそうな広さで真中に炉が切っただけ。まあ避難小屋という感じではある。4時過ぎに帰途につくことにして、これからシールをはずし、楽しい滑降がはじまった。ボーゲンにシュテムクリスチャニアと多少藪ぎみの小枝の間をもたもたと降りていったが、さすが武田、三橋氏はスイスイと下っていくが私は未熟なため、あちらでドスン、こちらでドスン。ちょっと大穴開けて風呂浴びしてますねん。武田リーダーはかなりこんだ林間をパラレルでシュブールを残し

てもう姿が見えない。オーイ早く来いよ。いやちょっと待って、樹にだきついてはなれられませんねん。又風呂浴びしてまんねん。藪に帽子取られて、これから取りに戻りますねん。と色々楽しいことばかり。かなりの傾斜面では、ストック制動を教してもらいながら、夕暮れの真白い雪原を小屋目指して一すべりで小屋到着。楽しい屋外での2日目が終わった。これから又楽しい小屋生活が始まる。まずストーブに火を入れて、雪を融かし、湯作り。薪はふんだんにストックしてあり、室内はすぐにあたたかくなり、夕食のメニューは白菜入りベーコン、ブタ肉、ラーメン、モチ、カマボコ入りごった煮。特製メニューをうすぐらい穴倉で食うのは、これ又おつなもので、東北地方の田舎へ帰って来たようだ。食後の黄桜をあつかんでほろよい気分にならしてもらい、又々結構な山物語を各々自慢し合う。三橋氏はアルコールはだめな方なので、その分こちらに仰山廻ってくる。有難いメンバーですよ。有難とうございます。明日天气が良ければ、小屋附近の適当な斜面で遊んでから下山するつもりです。次はどこへ行こか、あそこへも行きたい、こっちへも行きたいと、休暇さえとればどこへでもいって、と夢だけ見ながらストーブの上のあつかんをチビリチビリと冬の夜長が終ることがない。外へ雪を取りに出た時、かなり吹雪いており明日はどうなることやら。外の吹雪を忘れてシュラフにもぐり込んだ。朝5時頃寒さで目を覚まし、ストーブに火を入れて昨夜の残りのスープをあたためて飲んだ。お二人はまだ寝ておられる。そっとドアを開けるとまだ吹雪いており、150cmほど一晩につもっているようだ。昨日踏み荒したよごれはきれいさっぱりと無垢な新雪で包まれ、また踏み荒すのがもったいないようだ。楽しみにしていた小屋附近でのお遊びは断念せざるを得なく、さっそく下山することにした。小屋から直ぐに急斜面を深雪をけちらして勇社？に滑降していった。なんといってもツアーの良さは、新雪・深雪をけちらせて自分のシュプールを作ることだ。しんしんと降り積もる段々畑に三人のシュプールが思い思いの形で残る。上手な人は小廻りパラレルの軌跡が、私のはだらんと間延びした軌跡が、わざわざ小山に登り直して滑る。さすが下りは登りより大分早く下りられた。林道からはずれて藪の中にルートを見つけてお二人は先に行かれるが、私はこわくて林道オンリー組で、ちょっと待って、早よ来いよ。なんやかんやしている内にテントに戻って来た。楽しいづくめのツアーも終りに近づき、ヤカンと小屋を貸して下さった農家に礼を言い、帰途についた。ものはついでに書いておくと、この村に一軒だけある食糧品店には美人のヌード絵が沢山壁にかけてあることだ。この主人が素人絵画きさんのようで、スッポンボンの肖像画を拝見させてくれた。雪深い寒村での楽しみらしい。帰り道、出石に寄り皿そばをたらふく食って、ごきげんになった。名物の皿そばは乙なもので、武田氏と愛顧の出石町。又々ビールで乾杯、つかれた後のほろよい気分はなんとも言えません。この気分を味わうために来たようなものだ。京都着、夕方5時。

中丹の600m

滝谷と龍ヶ城

△679.2

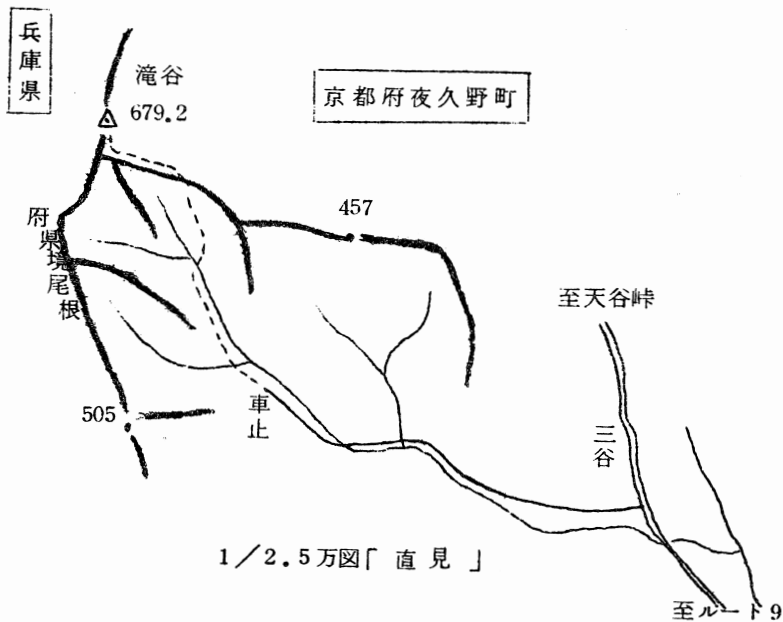
△645.6

田中忠久

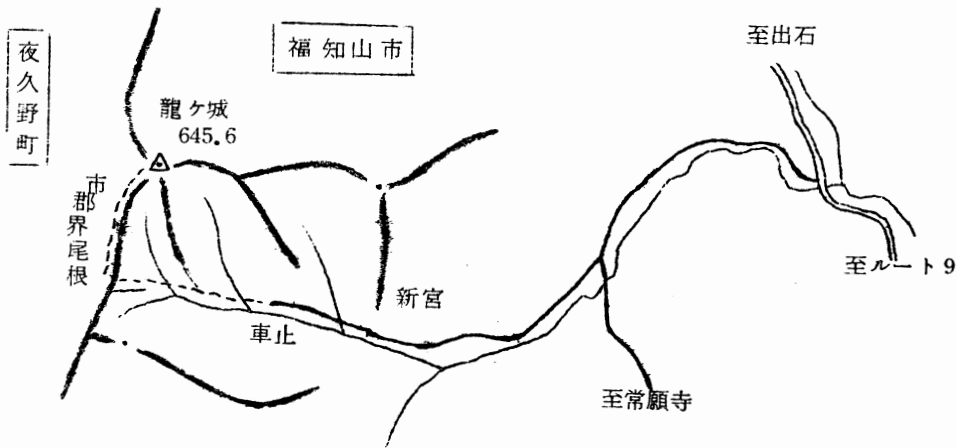
2月28日(月) 5時50分に家を出る。前夜には5時前に出発する予定をしていたのだが少し遅くなってしまった。しかし体調はこの方(遅い方)が良いようである。福知山で朝の交通ラッシュにひっかり夜久野町三谷(さんたに)に着いたのは8時半を過ぎていた。さらに林道を10分ばかり入って車を止めた。

登山準備をしていると山仕事の人が単車でやって来たので早速ルートや山名を尋ねると、この附近の山名(地名)は滝谷であると教えてくれたが、ルートについては道のあるところまでしかわからないようであった。天候はすばらしく春を思わす陽気でシャツ一枚で出発する。

駐車地から谷筋沿いに30分ばかり入ったところで道が消えたので、そこから比較的容易に登れそうな北面の山腹に取付いた。途中、伐採地などもあって約30分で△679.2の東尾根に登り、さらに20分で山頂に達した。山頂を少し北へ行った地点から、木の間越しに北方から東方の山々を望むことができた。西床尾山、きしやま△736.5、富岡山△707.3、五森△760.1、夜久野町の最高点・780等々である。落葉期ゆえの眺望であったかも知れない。積雪が10cmばかりの美しい山頂であった。下りは、登りに付けておいた赤いテープをたどりつゝ、きわめて忠実に同じルートを下山することができた。



再び国道9号線に戻って東進し上川口で左折北進、新宮から林道を少し入ったところで車を止め朝食兼昼食にした。朝から体調、ルート共に快調で朝食をすっかり忘れてしまっていたのである。



1/2.5万図「三岳山」

駐車地から工事中の林道を経て谷筋沿いに進み、道が消えたところから今度は西面の枝尾根に取付いた。この尾根は文字通りの直登尾根で登り25分かかったものを下り10分足らずであったからその直登ぶりがわかってもらえると思う。直登尾根を登り切った地点から市郡界尾根を北上して25分で東西に長い龍ヶ城の山頂に達した。山頂東端地点から北々東方面の山々を望むことができた。三岳山が堂々として立派で、大江山連山の稜線も美しかった。

〔コースタイム〕

5:50 自宅(宇治市小倉) - 8:32 三谷 - 8:40~9:00 駐車地... 9:35 北面取付... 10:10 東尾根... 10:30~10:45 滝谷△679.2... 11:35~11:40 駐車地 - 12:20~12:40 駐車地... 13:05 枝尾根取付... 13:30 市郡界尾根... 13:55~14:10 龍ヶ城△645.6... 14:45~15:00 駐車地 - 17:30 帰宅

鴻 応 山 (こうのやま) △ 678.9

3月9日(水)公休の朝、起きてみるとすばらしい晴天であったので30周年記念登山に選ばれた京都府下30山のうち残っている鴻応山に登ることにした。自宅を9時30分に出発する。ラッシュを外したつもりが洛西ニュータウンを通過するまでに50分かかった。いつも思いのだが、京都西北の山に登るには洛西方面に居住することがきわめて有利な条件のようである。

国道9号線から423号線に入り、柚原の交叉点で左折し、車道が少し下りになった左手の空地に車を止め、駐車地から少し戻って車道の最高地点から大阪府側の寺田に通じる林道を登った。

府境界尾根まで約20分で、府境界尾根にも道があり、その道を10分ほどたどると左手へ下るようになったので尾根を忠実に登ることにした。山頂近くなると再び道が現われて約15分で山頂に達した。丁度12時であった。展望のない山頂であったが、地元の小学生が卒業記念に登っているらしく標識がにぎやかであった。登り45分、下り30分のあっけない山であったが、宿題の山を一つかたずけることのできたのはうれしく、帰路に北摂を選んだのも変化があって楽しかった。

〔コースタイム〕

9:30 自宅(宇治市小倉) - 11:00 ~ 11:15 亀岡市西別院町福原(駐車) ... 11:35 府境界尾根 ... 12:00 ~ 12:10 鴻応山△678.9 ... 12:40 駐車地

第1416回例会

白銀の武奈ヶ岳

和田良一

岳連の遭難者救助訓練とスキーの例会が重なった今回の比良行き、三橋さんらはスキー組、われわれは歩行組となり八雲であいまいと別れた、われわれ横井さん、古市さん、大木さん、小生の4人組はイン谷口より正面谷へ、遭難者救助訓練を見学しつつ武奈ヶ岳へ行こうと歩きはじめた。正面谷の小屋で岡田さんがおられるだろうと小屋へ行くと先にロープウエーの展望台に行かれたとのこと、仕方なく4人は金鷲峠へ向う。

去年とは比べものにならないぐらい雪が少く歩きやすい、青ガレの下までいっきに歩いて休憩、周囲の雪も大変多く琵琶湖の景色も大変美しい。青ガレの急坂を登るが今日は横井さんが快調で歩いて歩くのがしんどい。また、反対に古市さんが、少し不調だ。大木さんと小生は黙々と歩く。

峠に近づくとつれて、風が強く、雪が舞い上りわれわれにかぶさってくる。やっと金鷲峠に着き小休止。他の登山者のトランシーバーから岳連の人と交信している岡田さんの声が聞える。

ここで、アイゼンとスパッツをつけ八雲ヶ原に向け出発…。にぎやかなスキー場に到着、少し待っているとスキー組の三橋さん、功ちゃん、大槻貞さんと合流、また前日からスキーに来ていた川原くん、山元くんに出会い、武奈から下りてきたとのこと。

ここでまた、スキー組はリフトに乗り武奈へ、われわれはイブルギのコバを経て武奈ヶ岳へ、正午には頂上に行けるだろうと話をしつつ雪の中を歩きつづける。途中腹が減って小休止、にぎりめし等エネルギー源を補給(みんな空腹なのにだまって歩いている。小生も腹が減っていたのに辛抱していたら結局みんな同じことだったとのこと、なんとバカラシイ!)

だんだん雪が深くなり歩きにくくなってくるが、スタミナマンの異名をとる古市さん、今日は特に体調が悪いようだ。いつもの馬力がなく、ただみんなが歩くからついて歩いているという感じ、とうとう最後の急坂の手前で「先に行ってくれ」という言葉が飛び出した。よほどしんどかったんだろう…。しかし4人は、もう少しだ、がんばろうということで黙々と急坂を登り、やっと1214m

の頂上に到着、先に登っていたスキー組と合流、快晴の頂上、360度パノラマの景色、つき抜け
るような青空、こんなことは一年に何度あるだろう…。しんどかったことも忘れ、全員昼食、元氣
を回復してスキー組、歩行組、それぞれ別れ雪景色(木と雪のコントラストの美しさ)を楽しみな
がら一路八雲ヶ原まで下山、スキー組と八雲ヶ原で合流、スキー組はロープウエーで、われわれは
時間もあるのでダケ道をいっきに下山した。最高の好天で、雪の武奈ヶ岳、楽しい一日でした。

〔コースタイム〕

8:00 イン谷口… 8:10 正面谷小屋… 8:55 青ガレ下 9:00… 9:35 金糞峠 9:45… 10:30
八雲ヶ原 10:50… 12:05 武奈ヶ岳 13:25… 14:05 イブルギのコバ… 14:20 八雲ヶ原
14:50… 15:07 ロープウエーのりば… 16:17 大山口… 16:40 イン谷口… 17:10 比良駅

第1417回例会

越 美 国 境 ス キ ー ツ ァ ー

萌 椰 子

今年も雪の都合で行先変更加越方面より昨年と同じ1355回例会の野伏ヶ岳と他に薙刀山が増え
ました、3月5日朝7時名神東インター前集合、武田さん、石田さんの二台の車に分乗、高速道を
大垣まで行き21号から岐大バイパスを經由、岐阜を通過、関の近くでコーヒータム、本日の行
動の説明を聞いて出発、156号線を北上、白鳥町を過ぎ前谷より檜峠へ、昨年より雪が多いそうで
すが道のきわにあるスキー場はリフト料金が安いのに人影もチラホラでした、石徹白の家並は何処
も雪害からガードする板囲いがあり雪国の感じを味わいつつ、去年のテント地に車をデポする。其
処より雪の林道なれど重荷を背にスキーをつけての行動は和田山牧場の雪原へ予定より一時間遅れ
ての到着、風が強く指もしびれる中でテント場を作る。私はこのような作業は初めてでいい勉強に
なりました、また狭いテントの中でいかに能率のよい動きが必要か。テントの外に個人用雪洞も作
るのち5時半にやっとテントの中へ入りまずはキャンバイ、但し今回は節酒でいくとの事、残念な
がら余分のアルコールは車の中に留置しておきました。暖いストーブで体を温めて食事を終え風の音
を聞きながら明日の好天を願いつつ9時半消燈、

6日朝6時起床、雪温計マイナス5度、テントの中での行動は慎重かつ手際よくやらぬと時間ば
かり掛る。曇天で小雪のちらつく中をスキーにシールを履かせてB:Cを出る。野伏ヶ岳より東北へ
張り出す尾根の話をまいて推高谷上流より北側の尾根に取り付きトラバース気味に主稜へ向う。谷
をすぎたからはツポ足で進行、稜線へ出てからはガスと吹雪の為に視界不良で私は五里霧中の感じ
リーダーのストップの声で薙刀山頂上に着いたことを知る。パンザイ三唱、時間的にも太郎山は無
理とのことで、此処よりUターンす。下山は滑降するのだが、スキーを履くのに金具に雪が付き凍
って装着に時間が掛って困る。下りはコルから谷を滑って13時20分B:Cに帰着、テントの中
で昼食、本日の食事係を除いた人で雪洞を作る。夕食事迄に立派に完成。私も経験の為に雪洞泊り

のメンバーに入れてもらう、今日は日曜日で野伏に登った人が多かった。

7日朝6時起床、気温マイナス5度、昨夜の吹雪の為に30～50cmの積雪、まだ小雪がちらつき空も暗い。行動を少し見合わすとの事でゆっくりと朝食が出来た。7時にテントの外の様子を見る。気温が下ってマイナス7.5度で空の色も明るさが増す。天候が回復しそうだとう煮をしてB:C 8時15分に出発。太陽が顔を出す。

和田山牧場で一番大きな池のある南側より野伏ヶ岳へ繋るダイレクト尾根を登る。リーダーより7ピッチで頂上へ着きたい予定だと聞かされて青空が広がり暑くなってきた雪尾根をガンバル。尾根を半分程登った所で日本カモシカ二頭を発見、暫らく足を止める。野伏ヶ岳頂上11時20分着パンザイ三唱、コーヒーの温いのでカンバイ。雪山の360度の景色は何時見ても気持ちのよいものです。気温の上昇にともない雪質が重くなり滑降するにはよいコンディションとは言えないが、指示されたとおり安全を確認してロング斜滑降にキックターン、そして大斜面にあわく(新雪表層雪崩)で流れる状態でスリリングな感じのスキーを楽しみました。

B:C 13時5分着、テント撤収の上各自荷物をまとめて14時、和田山牧場に別れをつけ林道の悪雪、樹林帯の粉雪と楽しみつつ車のデポ地に14時45分着。駐在所の民宿石徹白昇一様へ立寄り小休止、往路と同じコースで帰路につき関附近の国道ラッシュや高速道降雪の為にスピード制限等々で相当タイムロスが出ましたが、無事京都東インターを出て解散しました。楽しい合宿が過ぎましたのも皆様のおかげと感謝いたしております。有難うございました。

【コースタイム】

- 3/5 名神高速東インター 6:50～7:00 一関の喫茶店 9:40～10:10…石徹白大進橋横デポ地 12:10～13:25…和田山牧場 15:40…テント入り 17:30…消燈 21:30
- 3/6 起床 6:00 (-5度)…B:C 出発 7:45…野伏ヶ岳東北ダイレクト尾根 8:50…推高谷上部 10:00～10:15…薙刀山 11:10～11:30…1481m 地点コル 12:00 (?)…B:C 13:20…雪洞作り完成 17:00…消燈 19:50
- 3/7 起床 6:00 (-5度)…朝食 7:00 (-7.5度)…B:C 出発 8:15…尾根約高度 1400m 地点 10:30…野伏ヶ岳頂上 11:20～11:50…B:C 13:05～14:00 (0度)…大進橋デポ地 14:45～15:15…一関の喫茶店 16:00 一多賀SV 20:45 一神東インター 21:40

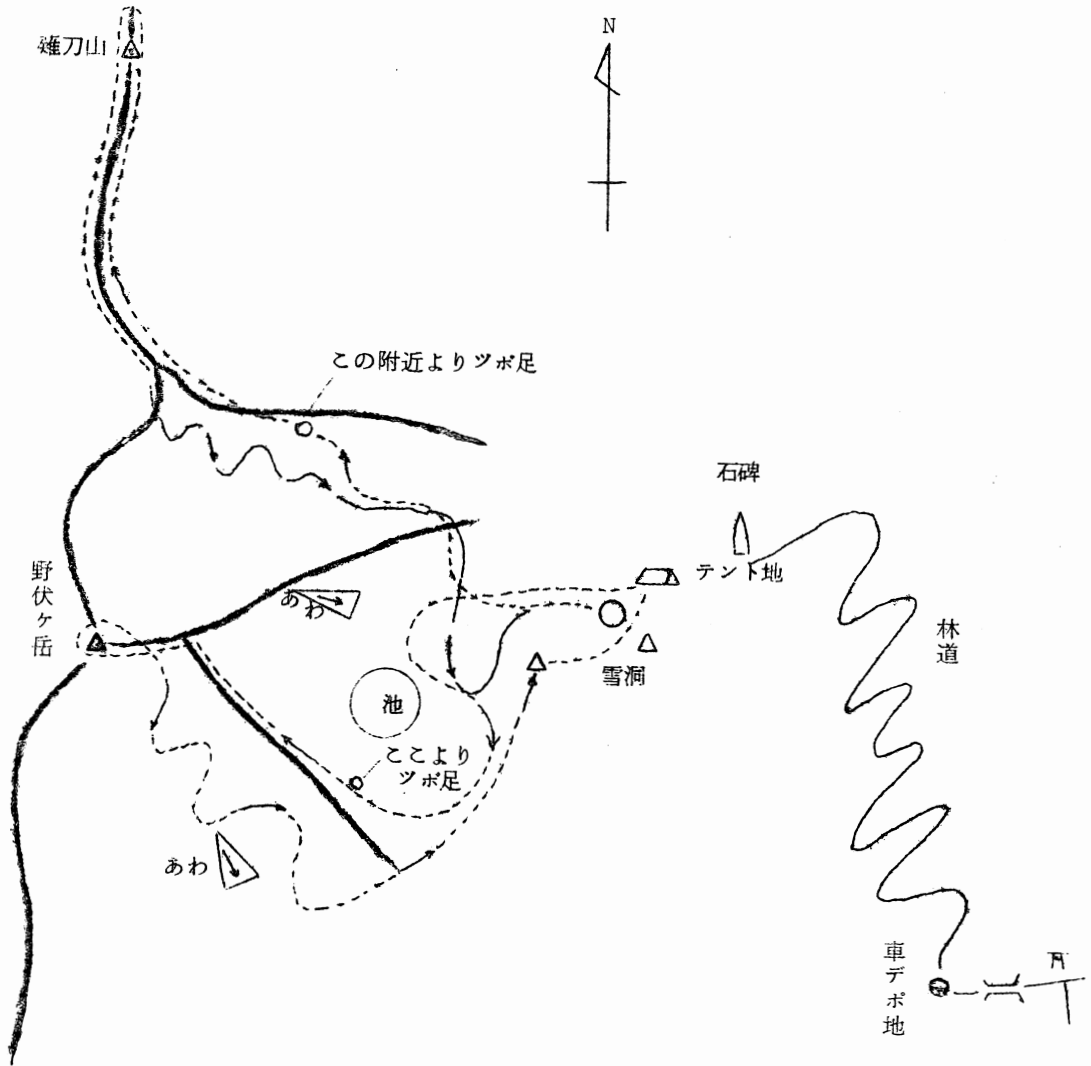
【参加者】 武田喜久郎(リーダー)、坂田利春、重田晋助、台川教美
ゲスト参加 石田寿雄

スキーツアー

重田晋助

入部以来初めての例会、越見国境スキーツアーに参加した時の感想を一言。まず行動中リーダーの細部に至る言葉に必ず従う先輩諸氏の態度であった。実際に行動してみてこの事がパーティーを安全に導く原則である事を痛感した。次に今回のツアーは正直いって辛かったの一言で面白さはほ

んの少し、但しやり終えた時の感激はひとしお。今回の参加を勧めて呉れた人の話では、かなり楽観的に想えたので少々当て外れ、やゝ恨みに思ふ。「本音プラス冗談」 あれ！ ごめん、リーダー始め、先輩諸氏に感謝している。前記の方にも。 以上



山 癖 雑 記 拾 九

伊 藤 潤 治

飯盛山(第1413回例会)は前日になって強い寒波が張り出しあばれる見込みとの注意報である。しかし京都の夜空は星がまたたき冴えかえていた。めざす美濃の山間の空はどうなのか、様子を久瀬村へおうかがいすると、古い積雪が30cm余あって、目下降雪中で明日も多分降りつくでしょう、とのことであった。

積雪は始めから覚悟していたが、笑われるだろうけれど降雪中を登るような荒行は考えていなかった。だから飯盛山はまたの日に残し、この日は和崎洋一教授(富山大)と二人で、晴れわたった丹波の山を味わってきた。

その一 鹿倉山(福知山)

この山は宮崎日出一氏の個人山行月報誌「山岳巡礼(第34号)」ご紀行によって、登りたくなった山である。

6時すぎに出発すると、日曜日の国道9号線もすいすい快走できた。観音峠を越えてから風花がとび、雪をつけた対向車もきたが、この辺りには雪はなくどこから喰付いてきた雪だろう。菟原を通過する時、鹿倉山のたのもしい隆起を仰ぎ、三和町千東で左折し東田ノ谷に入り、坪倉正隆さん方をたずねて鹿倉山の読みをしかがらやま、毎年新春登山が行われ、正一位八幡宮から登山道がある事を教わった。予定では、県境尾根を登れないかと考えてきたが、道はないとおっしゃっていた。正一位八幡宮にもどると軽四輪で猟装の地元人が現われた。これから鉄砲持ちさんや犬君たちと一緒にいいのかといささか不安になる。

しかし先方さんでも私たちは邪魔者にちがいない。ところが私たちと駐車位置や鹿倉登山道の問答だけで、なぜか引上げてしまわれた。おかげでやれやれの安堵にひたれたのだが、考えるとこれは何とも嫌な根性で恥かしい。

正一位八幡宮境内東にある「鹿倉山登山道」の立標で北行すると、あとは緩やかな曲線でつづく一筋道。これが植林帯でなく落葉した裸木の林を縫うのだから、甚だすがすがしくこたえられないのしさに包まれる。その林に陽光がもれ、頂上が姿をのぞかせている辺りに「しかがら山」の標があった。この「ぐら」の意味は岩であると思う。随分ゴツゴツゴロゴロと岩石が多い。

いづこの梢が気まぐれな小鳥の声がし、陽のさすほどよき地に席をもうけて、和崎教授のご亭主で緑茶を喫して憩う。茶の心は知らないが西岡(一雄)老の「軸替へて 茶釜の沸り うれしみつ 一ぶくの茶 心足らへり」は分ったような心地であった。

西稜に上っての道も降積った枯葉や、直立の細幹群が美しかった。「駒掛地藏」分岐をすぎるとすぐ頂上に立てた。私はこの名峰のためには、宮崎日出一氏の名紀行文を拝借する事が最適だ

と信じその頂上部分の玉稜を抜粋させていただくことにした。

「鹿倉山Ⅲ△548m、360度の眺望であり、川井先生も「多紀アルプスは絶品だ」と言われる。長者ヶ岳、三岳山、愛宕山もしろがね色に浮んでいる。中央に孤松あり△標石は欠損して「黒占」の字を残すのみ、標石にウイスキーを注いでのち、露岩に腰かけ乾杯（去る1月23日、積雪20cm時のご登頂）」

私たちが山頂へ乾杯を捧げたあと、旧暦元旦のことでもあり、ささやかなほた火を囲みお雑煮を祝ったが、和崎教授のご馳走包みに「酒のまむ 友どちもがも しくしくに 雪の降る夜は 寂しきものを 和田敏足」（折々のうた、大岡 信）がのっていた。

これは飲み友だちを欲する歌だが、私たちは「あすよりの後のよすがはいざ知らず 今日の一と日は酔ひにけらしも 良寛」だろうか、美事な飲み友だち、浮遊する風花の中、これやあれやを着て賑やかにちょうだいし、いいあんばいになってともにめでたがり、往路をごきげんで下山した。

その二 鋸山（襦山）

この山は、たしか1979年暮れの矢立Ⅱ△1373m（妻籠）の時であったと思うのだが、今西錦司先生から山名をきかされ、その所在をおたづねして「兵庫の山やま、（多田繁次著）」を読んでへんとは、不勉強やお叱言をちょうだいした山だ、

こんな由緒のある山なので、息子たちと去る1月23日に山行の予定であった。ところが風邪をこじらせ、今度は自身に不養生を責る破目になってしまった、

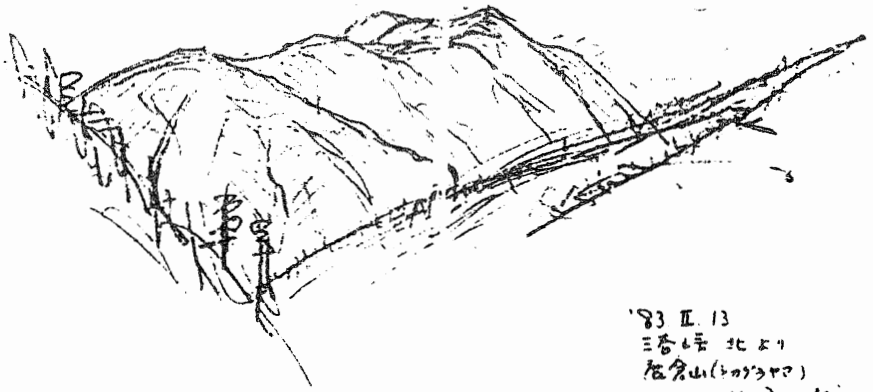
以上の経緯によれば、この日は順番からでも始めに登るべきだし、時間切れの懸念だってないのに、なぜかあとになった。鋸山は三春峠越えて春日町に入りし、北麓の広瀬からピストンを考えていた。しかし鹿倉山でみたその三春峠の東辺は、山火事らしい不気味な煙を上げていた。果たして峠を越えられるだろうか、ちょっと冒険のようだが行けるところまで往こうといいながら西田ノ谷に出ると折よく居合せた猟人たちから、峠越えは可能ときかされ助かった。また東田ノ谷を見下ろす秀峰（Ca. 400m）名タカシロも教えてもらえてよかった。

峠の上りに、鹿倉山の好展望のある道路工事箇所があって、まめやかな和崎教授はカメラにスケッチにおいそがしい。そこで見るタカシロは、姿を不沈空母か城壁のようにかえていた。三春峠には開通を記念する碑、その他、展望は木立のため南西、等があった。

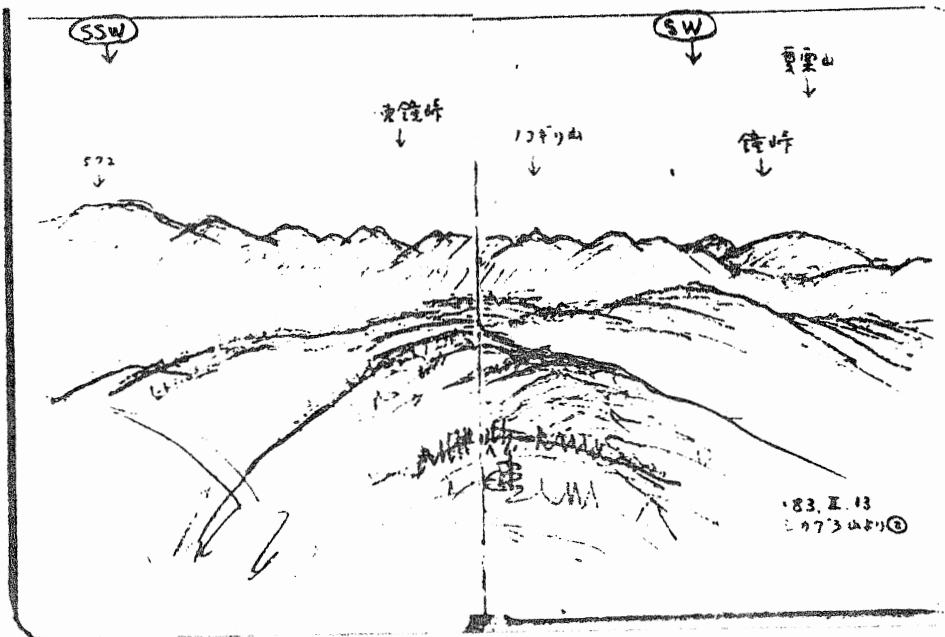
心配していた異様な煙は、春日町の降路下の斜面で数人に見守られ、まだいぶっていたし山麓の「原」には、どうするつもりなのか消防車二台がいた。上三井庄の酒店で自家製という田舎饅頭と飲料を買込み、広瀬に至って村人に、鋸山へのぼりたいのですが道はどこでしょう、とたづねた。

村人は、あれが鋸山というのかどうか正式な名前は知らないけれど、ここで三角点は「マタニ」と呼んでいる。道は松森の神社横から水源池を経て登っている等をご指導いただいた。

教えられた水源池に向うと入口は、施錠のない棚であったが、私たちはそこから森林を歩きはじめ、簡易補装路300m余の左が水源施設、その先も道中は変わらないが、とたんに路面がわるくなった。取入峠の上手に「小屋ノ谷、間谷」の標が建ち、左から小屋ノ谷が間谷へ合流していた。広瀬での山名マタニはどれもこの間谷からの命名のようである。



'83. II. 13
 三香峠 北より
 石倉山(たつたつ)
 y. Wajakei



(SSW)

(SW)

522

東鏡峠

1277m

夏梁山

滝峠

'83. II. 13
 三香峠北より

エビネランを見てうす暗い植林に入り谷巾がひろがって谷が岐れてふえる地点で左にわたり斜面に取付いて上り右へ廻りこんでいくと、左に小屋ノ谷に立つ峭壁をのぞむ尾根端に出た。ここでの田舎嶮頭はうまかったが尾根は茂めた南登、左をとったこのコースは迂回になりまづかった。

踏跡らしいのが上ってきたり、岐れたりする内に尾根筋に霧岩がのっかりだと、前方にも谷からは上っている尾根がありトラバースでそこに達すると、東西に横たわる霧岩頭群の西端。東へよじのぼり顕著な岩稜の南裾をまいて、春日、西紀の町界稜にとびだし、そのまま町界稜を辿っていくと、鋸山 Δ 606mの標石地点につけた。

標石地点の東が少し高くそこから妙高山や鹿倉山を眺められる狭いが痛快な山頂である。だが標石付近の木片に「滝谷山」と記してあった。この山名標には好意をもてなかったが、宮崎日出一兄は「大近山の会」の建ではないかとおっしゃっている。

せっかくの山頂ながらあまり時間がなく、缶ビールをいただいたくらいで、急ぎ往路を下山したが、顕著な岩稜下で軌道修正一回と峭壁をのぞむ地点で茶を入れ、田舎嶮頭で鶏う余裕があった。鋸山は見栄えのしない山だが登ってみると結構手強さもあり、見掛けによらぬええ山であると見直した。もし鋸山を前座に登っていたら、おそらく山頂に居座ってしまったことだろう。まさに真打にふさわしかった。

家路では、暮色の中に立ちはだからんばかりにそそり立つ、西岳、三岳。次はこの西岳を登ろうと約束させた秀坂のながめ、まあ、2月1.3日は和崎教授と丹波のえい山を十分に味えた佳き一日だった。

1983年3月2日

長距離歩行への誘い

高速 井上一夫

2月20日 滋賀県YH協会主催の歩行テストに参加しました。この歩行テストは本年1月号で報告済みの山元誠一氏の「近江路57Kmを歩く」の姉妹編です。昨年11月は賤ヶ岳から近江八幡市の勤修寺YHまでの歩行でしたが、今回は勤修寺YHを出発して瀬田の唐橋の滋賀青年会館までの38.9Kmを歩きました。

今回歩いたコースは「山と溪谷 2月号」の特集記事「いま スポーツハイキングが楽しそう」の中で紹介されている琵琶湖一周歩行会の最終日のコースで、今は県YH協会の歩行テスト上級認定のコースになっています。山元氏と私の報告で琵琶湖の東岸は完歩したことになります。

歩行テストと名が付いているので、今回は認定を受けることにしました。前回歩いているので既に初級は認定済みということなので、中級の認定を申請しました。なんでも、いきなり上級の認定は受けられず、初級から段階を追って認定を受ける規則との事です。

| 認定コース | 距離 | 制限時間 | 負荷 |
|-------|------|---------|-----|
| 初級 | 20Km | 5H | 無し |
| 中級 | 30Km | 7H30min | 3Kg |
| 上級 | 40Km | 10H | 6Kg |

当日は快晴ながら昨夜来の冷たい強風が止まず生憎の天候となりました。でも、この時期にこの冷え込みで雪が降らなかったことがせめてもの救いです。早朝7:30にYHを出発しました。参加者は老若男女合わせて45名。出発点の勤修寺YHは、近江八幡市の長命寺の近くにあります。出発が早いのでほとんどの人がこのYHに宿泊していました。YHについて皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか。消燈や起床時間、禁酒の規則、食事の片付けをやらないといけない等、少々わずらわしい点があるものの、一人旅でも宿舎で出会った人と気楽に話せる雰囲気があるのは捨てがたい魅力です。また、規則の厳しいYHのある中で、このような行事のある時は消燈時間の制限を緩めてくれる等、多くは言えませんが、楽しく過ごせる配慮もしてくれます。

出発して30分程で関白秀次の居城だった八幡山城のあった八幡山の裾沿を回り込んで浜街道に出る頃には身体も少し暖まりピッチも徐々に上がりました。最初の9Kmに1時間40分掛ったが、次の3.7Kmを27分で歩いた。

歩行テスト上級コースと言えど38.9Kmはたいした距離では無いし、単調な田園風景と田舎の町並が続くだけで余り魅力のあるコースではありません。しいてあげれば比良山系と近江富士三上山の刻々と変化する姿を楽しむ程度がコースの特色でしょうか。まあ昨年11月の57Kmとこの39Kmで湖東の北から南まで足跡を記すことになるのが一つの魅力と言えます。

出発してから12.7Kmの兵主大社には9:47に到着しました。ここで、コーヒー等の差し入れがあったので一休みしました。先を歩いていた人達もここで休憩しています。私にとって参加者の半数の人は知っています。参加者は琵琶湖一周連続歩行を40数時間でやった人や135Kmを24時間以内に歩いた健脚家等もいるし、色々な歩行行事を渡り歩く「歩中(アルチュウ)」患者も多数いますが、歩行行事は今回が初めてという人も若干おられるバラエティーなものです。

15分程休憩して4年前の富士登山以来の付き合いのN君と一緒に出発しました。目指すは守山の昼食予定地の州本。兵主大社から野州川北流に掛る吉川橋を渡ると中主町に入ります。ここまで来れば比良山系も間近に見えます。そして、近江富士の美しい円錐形の姿も見えるようになります。

ここ近年に完成した野州川の放水路に掛る橋を渡り、次に野州川南流に掛る橋を渡ると州本は目前、州本の交差点のラーメン屋へは11:15到着。店は歩行テストのメンバーでほとんど埋まり、やっとの事で席を確保しました。ここは大方の人が11時~12時までで通過するので昼食に立ち寄る店です。ここからは浜街道を外れるので、少なくとも10Kmは小さなお菓子屋すら無く、必然的に全員ここで昼食となります。一寸の差で到着の遅れた人達を尻目にカレーラーメンの大盛とライスにかぶり付きました。お茶かわりのビールが旨かった。食事を済ませ待っている人と席を変わり再びN君と出発した。丁度ビールがまわってきて、ほろ酔気分で出発したものの寒風で10分も

歩けば覚めてしまった。

田圃の中の延々と真直ぐ続く農道をしてくと歩きました。2～3kmも直線のところがあり前を向いていると気の遠くなるような道です。強風に吹かれながら1時間半でようやく草津市に入り、近江大橋の入口付近から再び浜街道に合流しました。瀬田の琵琶湖胃腸病院の前を左に折れるとゴールは間近。そしてこの辺りから琵琶湖も瀬田川と名を変えます。

前方に今回のゲスト的参加者のNHK大津放送局のUアナウンサーが足を引摺りながら歩いています。第10回の琵琶湖一周歩行の取材が縁で、今回は取材ではなく自主的な参加の様です。ゴールは目前ですよと激励して追い抜いた。実はこちらも少々足が痛かったのですが、見得を張ってでも元気に追いつく事で琵琶湖一周を完歩した意地を見せたまでです。

かくして唐橋を渡り滋賀青年会館へは、15:42に到着しました。8時間10分で38.9kmを歩きました。左足の裏に小さなめがひとつと右足の甲の痛みが歩行の余韻として残りました。青年会館で認定式と交歓会を済ませて唐橋を後にした時には辺りに夕闇が迫ってきていました。

私の山は「歩く」ことから始まりました。琵琶湖一周歩行を歩き再び参加するためのトレーニングとして東海自然歩道を歩き出したのは7年前になります。一度は琵琶湖のハードウォーキングを健脚家の集まりの山岳部に紹介したかったが、ハードウォーキングと山の接点が見い出せずに今迄きました。わずかに過去に報告した六甲山縦走(40km)や全行程歩いて登る富士登山(標高差、2600m)と形を変えてハードウォーキングを紹介してきました。

山岳マラソンが京交で論争になったのは3年か4年前でしたでしょうか。しかし、今やバラエティな山行が各地で行なわれているような世の中です。古典的な三角点・赤線病に始まり、やぶこぎ、岩・高・低山ハイク、雪山、夜間登山、ケービング、縦走登山、キャンプ、ツアースキー等、京交でも可成り多様な活動が行なわれています。

山と溪谷と言えば、他の山の雑誌に比べれば商業主義的色彩が強い方です。(しかし、他より読み易いのも確か)だから山の雑誌にハードウォーキングが紹介されたからと言って京交の山屋さんに直ぐ受け入れられるとは思いません。しかし、ハードウォーキングと山との接点を上手に見い出せば一つの可能性を引き出せると思います。

例えば比良全山縦走や世界でも類の無い海拔0mから登る富士登山等、一つの思い出話ですが、私が初めて24時間連続歩行に参加した時、111kmのコースを歩いた年の事です。靴ずれ、関節痛、眠気等で体力も精神力も限界を過ぎ、呼吸すら苦しい状態でゴールに入りました。23時間で完歩したもののほとんど口をきけず、完歩の感動すらないほどでした。この連続歩行は100km、111km、120km、135kmと4つのコースがありますが、111kmを歩いて自分の限界を悟りました。ところがこの時に135kmを制限時間の24時間かつかつで完歩した女性がいたので。健脚を誇る男性でもこの時は4人が完歩しただけです。後にも先にもこのコースを完歩した女性はこの人だけです。精根尽き果てたその人の姿には感動しました。「山溪」で杵島 博氏の言った真に「頑張った」姿がそこにはありました。

山の頂を極めた気持ちと充分通ずるものがハードウォーキングにはあります。100kmを越す歩行

では、50Km以降が自分との戦いです。40Km位の歩行行事も数多くありますので、興味の湧いた方はお尋ね下さい。高い山があればそれを越え、深い谷があればそれを渡る。延々と続く旅が私の夢です。

昭和57年度

山岳部総会報告

昭和58年3月10日 下鴨寮

| | | | |
|-----|------|---|----------|
| 出席者 | OB部員 | 近藤、伊藤、山村、奥村、津田 | |
| | 本局 | 渡辺智、武田、石田、松井、渡辺明、方山、大槻、川原、三浦、三橋、原田、和田、古市、広瀬、楠、鷲見、大木、井戸、井上 | |
| | 高速 | 岡田、大切 | 西賀茂 (欠席) |
| | 梅津 | 吉田、徳野 | 五条 (欠席) |
| | 高野 | 森本 | 醍醐 (欠席) |
| | 横大路 | 牧野 | 錦林 (欠席) |
| | 九条 | 田中、大槻、上島 | 烏丸 坂田、大倉 |
| | 洛西 | 広瀬 | 市役所 荒田 |

以上 37名

昭和58年度京交山岳部総会を3月10日6時30分より下鴨寮で37名の部員により開催した。今回の総会は、宮後部長の後任の選出などを決定する重要な課題が多く、熱心な議論がかわされた。

吉田議長の下でまず最初に昭和57年度事業報告が大槻部長代行よりなされた。57年度のテーマである「年間を通じて誰れでも参加出来る山行と若いリーダーの育成」ということが、1年間60回例会を組み、延609人(1回平均11人)が参加したことや、若手中心で夏山(剣)合宿が成功したことをみても、ほぼ達成できたということであった。

次に昭和57年度会計報告及び58年度予算案が、川原氏より行われ、別紙のとおり承認を行った。備品50,000円の目的について、ゴアテントが冬場使用困難であるということでフライシートの購入をしたいと報告があった。

また、58年度には日山協の保険に各自加入し、昨年度の助成金を保険代という形でなく幅広く使用してほしいとの意見があった。

さらに58年度は、部創立35周年の記念に向け、積み立てを行っており、部報の値上げなど赤字が予想される財政的に苦しい年となり、OB会員や郵送する部員を対象とする部報発送について3,000円(2,000円会費+1,000円送料)ということで確認された。

57年度表彰について三橋氏より集会参加、例会参加、山行担当投稿者に対して下記のとおり行った。

昭和57年1月～12月 山岳活動表彰について

| 区分 | 集会参加 | 例会参加 | 投稿ベスト | 例会担当 |
|-----|--------|--------|--------|-------|
| 第1位 | 11回 方山 | 20回 和田 | 16回 伊藤 | 6回 大倉 |
| 第2位 | 7回 奥村 | 18回 荒田 | 6回 畑 | 3回 井上 |

58年度役員選出について議長の吉田氏より改正案が提出された。今回は、宮後部長死去に伴う新部長の選出や、企画運営リーダー会、岳連担当者等々の改正(案)が出され、下記のとおり拍手でもって確認されました。

新役員を代表して、岡田部長の「宮後部長の基本的な考え方を引き継ぎ、京交山岳部の伝統を継承、発展させていきたい」という力強いあいさつが行われた。

昭和58年度年間スケジュールについて、田中氏より別紙のとおり報告があり、承認されました。58年度例会は、「山の知識を高め一人一人が幅広い山行きの中で若いリーダーの育成」という目標を掲げ、国体調査をはじめ10月に宮後部長追悼登山として徳本峠、30～50Km歩行、オリエンテーリング等々幅広いものとなっております。

また集会については、山の知識を高めるため約1時間それぞれ研修を行うことが確認された。その他について、今後、名誉部員という形のもの、本来山が好きなものでもって山岳部を形成しているという趣旨から、昭和58年から名誉部員を作らないということで全てOB部員という位置づけになることが承認されました。

以上でもって、昭和58年度京交山岳部総会における議題は全て終了し、58年度に向けて新たな出発を行いました。(記録 広瀬光)

昭和58年度 山岳部役員

| | | | |
|-----------|-------------------------------------|--------------|-------|
| 部 長 | 岡田 | (岳連) 常任理事 | 鷺見 |
| 副 部 長 | 大槻雅、 田中 | (") 理 事 | 大倉 |
| 会 計 | 川原 | (") 評 議 員 | 井上 |
| 渉 外 | 岡田 | (") 国体委員 | 吉田 |
| 部 報 | 三橋、田中、楠 | (") 自然保護委員 | 武田 |
| 備 品 | 和田、古市、大槻 | | 近藤、坂井 |
| 企画運営リーダー会 | 武田、田中、岡田、鷺見、三橋、大槻、岡本義、広瀬烈、吉田、大倉、広瀬光 | | |

昭和58年度支部委員及び会計

| 支部名 | 委員 | 会計 | 支部名 | 委員 | 会計 |
|-----|-------|----|-----|-------------|----|
| 本局 | 原田、井戸 | 井戸 | 横大路 | 牧野 | 牧野 |
| 西賀茂 | 横田 | 横田 | 錦林 | 高窪 | 高窪 |
| 梅津 | 吉田 | 徳野 | 九条 | 田中、上島 | 上島 |
| 五条 | 盛田 | 盛田 | 烏丸 | 台川 | 片岡 |
| 高野 | 森本 | 森本 | 洛西 | 広瀬 | 広瀬 |
| 巖湖 | 北川 | 北川 | 高速 | (姉)出海、(北)篠田 | 石田 |
| 市役所 | 荒田 | 荒田 | ○ B | 津田 | 河村 |

| 昭和57年度京交山岳部会計決算 (単位 円) | | | | | |
|------------------------|---------|--|--------------|---------|--|
| 収 入 | | | 支 出 | | |
| 内 容 | 金 額 | | 内 容 | 金 額 | |
| 1 部費 | 304,000 | | 1 備品消耗品費 | 58,045 | |
| OB 60,000 横大路 14,000 | | | 2 助成金 | 29,796 | |
| 本局 92,000 錦林 4,000 | | | 3 集会費 | 12,134 | |
| 西賀茂 4,000 九条 28,000 | | | 4 総会費 | 15,000 | |
| 五条 14,000 烏丸 16,000 | | | 5 部報代 | 208,800 | |
| 梅津 12,000 洛西 4,000 | | | 6 通信費 | 45,440 | |
| 高野 2,000 高速 28,000 | | | 7 遭対資金積立金 | 30,000 | |
| 巖湖 8,000 市役所 18,000 | | | 8 岳連会費 | 9,500 | |
| 2 厚生会助成金 | 80,000 | | 9 雑費 | 24,500 | |
| 3 雑収入 | 65,361 | | 10 35周年記念積立金 | 50,000 | |
| 広告料 50,000 | | | 11 次年度繰越金 | 22,985 | |
| 雑収入 15,361 | | | | | |
| 4 前年度繰越金 | 56,839 | | | | |
| 合 計 | 506,200 | | 合 計 | 506,200 | |
| 35周年記念積立金会計 | 100,000 | | 1 次年度繰越金 | 150,000 | |
| 1 前年度繰越金 | 100,000 | | | | |
| 2 一般会計繰入金 | 50,000 | | | | |
| 合 計 | 150,000 | | 合 計 | 150,000 | |
| 遭難対策資金積立金会計 | 872,508 | | 1 次年度繰越金 | 956,214 | |
| 1 前年度繰越金 | 872,508 | | | | |
| 定期 735,699 | | | | | |
| 普通 136,809 | | | | | |
| 2 利息(定期のみ) | 53,706 | | | | |
| 3 一般会計繰入金 | 30,000 | | | | |
| 合 計 | 956,214 | | 合 計 | 956,214 | |

| 昭和58年度京交山岳部会計予算 (単位円) | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 収 入 | | 支 出 | | |
| | 内 容 | 金 額 | 内 容 | 金 額 |
| 一 般 会 計 | 1 部費 125人×2000円 20人×3000円 | 310,000 | 1 備品消耗品費 | 50,000 |
| | 2 厚生会助成金 | 80,000 | 2 助成金 | 30,000 |
| | 3 雑収入 広告料50,000 雑収入10,000 | 60,000 | 3 集会費 | 18,000 |
| | 4 前年度繰越金 | 22,985 | 4 総会費 | 15,000 |
| | 合計 | 472,985 | 5 部報代 | 250,000 |
| | | | 6 通信費 | 45,000 |
| | | | 7 遭対資金積立金 | 30,000 |
| | | | 8 岳連会費 | 9,500 |
| | | | 9 事務費 | 5,000 |
| | | | 10 雑費 | 20,485 |
| | 合計 | 472,985 | 合計 | 472,985 |
| 35 周 年 記 念 計 | 1 前年度繰越金 | 150,000 | 1 次年度繰越金 | 150,000 |
| | 合計 | 150,000 | 合計 | 150,000 |
| 遭 難 對 策 資 金 計 | 1 前年度繰越金 | 956,214 | 1 次年度繰越金 | 1,043,840 |
| | 2 利息(定期のみ) | 57,626 | | |
| | 3 一般会計繰入金 | 30,000 | | |
| | 合計 | 1,043,840 | 合計 | 1,043,840 |

昭和58年度 山岳部年間スケジュール

58.3.10

| 目標 | 月 | テーマ | 例会 (山 行) | 行事 | 集會研修 |
|-------------------------------|----|--------------|--|----------------------------|--------------------|
| 山の知識を高め一人一人が巾広い山行の中で若いリーダーの育成 | 4 | 残雪の山を 楽しく | 奥美濃 天向山 9日 (三橋) 甲府 穴沢の頭 1983m 16~19日 (大倉) | | 読図 (吉田) (大槻) |
| | 5 | 新緑の山を 楽しく | 飛騨 榎津山、猿ヶ馬場山 2~3日 (武田) 奥美濃 大洞山 29日 (大槻) 北山 国体コース調査 8日 (吉田) | | 読図 (吉田) (大槻) |
| | 6 | 岩登りを 楽しく | 落合 5日 (鷺見) 北山 国体コース調査 | ザイル祭 | 山の植物 (三橋) |
| | 7 | 沢登りを 楽しく | 比良 西面の谷 10日 (大槻) (鷺見) 鈴鹿 愛知川 (岡本・吉田) | 厚生会登山 大会 26~ 29日 尾瀬 | 天気図 (広瀬) |
| | 8 | 夏山を 楽しく | 夏山合宿 大峰山系縦走 19~21日 (広瀬 光) | 二世登山 合宿 13~ 14日 (鷺見) | 天気図 (広瀬) |
| | 9 | ヤブこぎを 楽しく | 奥美濃 イソクラ (田中) ケービング 質志滝乳洞 4日 | お月見登山 22日 (大倉) | 幕営生活 (鷺見) |
| | 10 | 尾根歩きを 楽しく | 徳本峠 8~10日 (岡田) 鈴鹿の山 (吉田) | 宮後部長 追悼登山 | 歩行 (岡田) |
| | 11 | 紅葉の山を 楽しく | 北山 三国岳 (広瀬) 小豆島 樽岳 11~13日 (岡本) | | 山スキー (武田) |
| | 12 | 初冬の山を 楽しく | マラソン登山 愛宕山 (大槻) | 納山祭 24~25日 (広瀬光) | 冬山の技術 (岡本) |
| | 1 | 雪山を 楽しく | 台高 高見山 22日 (岡田) | 新年会 10日 (田中) 初登山 8日 | |
| | 2 | スキーを 楽しく | 奥美濃 大日岳 (スキー登山) (武田) 冬山合宿 | | 山の本 (田中) |
| | 3 | 残雪の山を 楽しく | 但馬 蘇武岳 スキーツアー 10~11日 (三橋) 教賀の山 | 総会 9日 (広瀬) | |

<おわび> 本年めでたく伊藤潤治、中村維源両名誉部員が古稀をお迎えになりましたので、古稀お祝い登山を実施させていただくため腐心してきましたが、両氏とも固辞されていますので年間計画に組入れることができませんでした。深くおわびいたします。 (田中)

例 会 報 告

| 例会係 | 目的地 | 月 日 | 天候 | 担当者 | 参加者 | 記 事 |
|------|--------------------|---------------|----------|--------------------------------------|--|---|
| 1412 | 冬山合宿 '83 木曾駒 | 2月10日 ~11日 | 風雪 | 川原 傳治 広瀬光太郎 井上一夫、 井戸登夫、 | 岡田 茂久 吉田 武 和田 良一 古市 昌造 方山 宗子 | この冬一番の寒波襲来のため、 -10°C以下のきびしい冬山で テント生活を体験できた。 明日の天候が回復するように祈 りながら寝る。 別稿報告 |
| 1413 | 飯盛山 | 2月13日 | 雪 | 伊藤 潤治 | | 天候悪く、4月10日(日)に 延期する。 |
| 1414 | (変更) 扇ノ山 | 2月19日 ~21日 | 曇時々 雪 | 武田喜久郎 | 大槻 貞従 三橋 勉 | 積雪の状況により氷ノ山を変更 して、扇ノ山にスキー登山して きた。 別稿報告 |
| 1415 | 伊吹山 | 2月25日 | 晴 | 大倉寛治郎 | | 都合悪く中止する。 |
| 1416 | (変更) 武奈ヶ岳 | 2月27日 | 晴 | 三橋 勉 | 和田 良一 古市 昌造 横井 襄二 大木 秀実 大槻 貞従 他 | 花背が積雪不良のため予定を比 良に変更して、スキー組と登山 組とに別れて登った。前日から 岳連の積雪期遭難者救助訓練が 行なわれているというので現場 へ見物に行こうと思ったが、時 間的に遅かった。 別稿報告 |

部 員 動 静

| 目的地 | 月 日 | 天候 | 参加者 | 記 事 |
|-----|-------|----|------|---|
| 愛宕山 | 2月19日 | 晴 | 畑 照人 | T君と同行する予定であったが、君の都合で私1 人となる。昨日は関西方面は台風並の強風が吹き 寒い日であったが、今日も風が吹く。清滝道を行 く。まだまだ春は遠くである。ヤブコウジの赤い 実が可愛いらしい。土曜日なので登山者は多い。社務所前広場では、数パーティ、 が暖をとりながら食事中。風が冷たい。神社参り済まして早々に下山する。 |

▲ワッペンの交付について

故宮後氏の御厚志で作成しましたワッペンを部員全員に大小各一組ずつ配布しましたが追加注文される方は、現金引換え（大500円、小300円）にてお渡ししますので各支部まとめて管財課大槻（TEL 2266）まで申込んで下さい。

なお、パッチも40個ほど在庫がありますので入用の方は乗車券係 武田（TEL 2397）まで申し出て下さい。実費（500円）でお渡します。

- 〔入 部〕 横大路 石橋博親 S16.1.23 生 城陽市寺田宮ノ谷5-42
TEL 07745 3-1094
- 本 局 桂 豊 S27.6.26 生 上.室町中立売下る花立町502
TEL 441-2985
- 高 速 伊達寿一 S11.11.21生 大津市瀬田橋本町200
TEL 0775 43-1345
- 〔退 部〕 横大路 清水 讓 高速 林 茂男 五条 山田精一
- 〔退 職〕 本 局 中島悠紀夫 嵯 湖 東 昭次（OBへ）
- 〔異 動〕 本局へ 上田 隆、沢井佳三（五条） 山田富男（洛西）
九条へ 古市昌造（本局）

▲部費受領

昭和58年度（OB） 奥村弘信、津田 実、王生そと、山村敏郎、近藤 薫、山下周道、
坂井久光、河村 清
（烏丸） 坂田利春 （洛西） 広瀬 烈

▲日山協の山岳保険について

58年度年間の保険契約者は下記のとおり締切りましたのでお知らせいたします。なお、毎月10日（集会時）に締切りますのでまだ入金されていない方はぜひ加入されることをお勧めします。

（本局） 武田喜久郎、三橋 勉、鷺見敏一、関本俊雄、大木秀実、井上一夫、川原博治
（烏丸） 大倉寛治郎、台川敦美、坂田利春、片岡秀明 （高速） 岡田茂久、篠田勝美
（洛西） 広瀬 烈 （梅津） 吉田 武 以上 15名

| 手続締切 | 共済開始日～ 終 期 | 1名当りの掛金 |
|-------|-----------------|---------|
| 3月20日 | 58年4月1日～59年4月1日 | 7,320円 |
| 4月20日 | 58年5月1日～59年4月1日 | 6,710円 |
| 5月20日 | 58年6月1日～59年4月1日 | 6,100円 |
| 6月20日 | 58年7月1日～59年4月1日 | 5,490円 |
| 7月20日 | 58年8月1日～59年4月1日 | 4,880円 |

帆布・漣布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7-30
TEL 521-7541代~4

テニス用品
スキー用品
山用品

交通場の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下・大宮松原上ル
TEL 801-1331

一年中、山用品だけの
プロショップ

おかげさまで創業1周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中!



ログ ケビン

京都市中京区御幸町通船業邸南入
☎(075)221-7569 〒604

(寺町の一つ西の通りの線上ル東側)
四条河原町(阪急河原町)より徒歩3分



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を

確信ある価格で....

好日山荘



河原町六角下ル東入

TEL 241-1731

昭和58年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内 東交山岳部



お知らせ

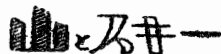
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先 本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具はセヒ御相談下さい
山とスキー 専内店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
TEL 222-0363

御婚礼
御引越



きおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山階町12-12
TEL (075) 581-3101

本社
東山区大和大路通四条下ル 541-2345
爽川営業所
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコー クラフト
西島輝雄

左 川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442



山とスキーの店
京都 あるむ

京都市中京区新町三條上ル
075-255-0288

HIKE & CAMP

この用具の事ならユニシが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして

海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1202